

アプライド マテリアルズ モバイル時代の利益ある成長に向け躍進

- 高度なモバイル機器に対する消費者の要求はアプライド マテリアルズの半導体・ディスプレイ製造装置事業に利益ある成長の好機
- プレシジョンマテリアルエンジニアリングの優位性により、顧客が製造するモバイル機器の性能、バッテリー駆動時間、ディスプレイ解像度、サイズ等の特性向上に寄与
- 新たな財務モデルを発表、非 GAAP 調整後の1株当たり利益の目標を2016年度までに1.50ドル～2.15ドルと設定

アプライド マテリアルズ (Applied Materials, Inc., Nasdaq : AMAT、本社 : 米国カリフォルニア州サンタクララ、会長兼 CEO マイケル・スプリンター) は7月8日(現地時間)、投資家や証券アナリストを招いたイベントにおいて、利益ある成長を進める計画について説明しました。その内容は、同社がプレシジョンマテリアルエンジニアリングの優位性を生かし、顧客企業が技術的な課題を克服してより高性能でバッテリー効率が高く、視覚的にも魅力あるデジタル機器を、拡大する世界市場に普及させるのを支援するというものです。より高いモバイル性を求める消費者の声に応じてトランジスタとディスプレイの技術が進化したことも、アプライド マテリアルズに利益ある成長への新たな機会をもたらしています。プロセッサ速度、バッテリー駆動時間、ディスプレイのサイズと画質などに対する消費者の要求はますます高度化し、半導体メーカーやディスプレイメーカーにデバイス性能や歩留まりの課題を突きつけていますが、アプライド マテリアルズはこうした課題を解決できるユニークな会社です。

会長兼 CEO マイケル・スプリンターは、次のように述べています。「半導体メーカーとディスプレイメーカーは、消費者が求める新しいモバイル製品を競って投入しようとしています。このモバイル分野での覇権争いに勝つ鍵は材料イノベーションにあり、アプライド マテリアルズにはそれが実現できます」

顧客メーカーがリソグラフィ加工の細密化以外にチップ性能を高める方法を模索する中、トランジスタ設計の再構築が進み、新たな材料とこれを処理する新しいプロセスへのニーズが高まっています。アプライド マテリアルズのプレシジョンマテリアルエンジニアリングの優位性はお客様がデバイス課題を解決し、3D トランジスタやディスプレイ製造に関するイノベーションを実現するために必要不可欠です。

アプライド マテリアルズ社長ゲイリー・ディッカーソンは、次のように話しています。「プレジジョンマテリアルエンジニアリングの優位性は、アプライド マテリアルズを特徴づけるものであるとともに、当社に利益ある成長を実現する機会をもたらしています。次世代のモバイル機器に求められる先進的な機能やバッテリー寿命の改善など、モバイル技術の大きな転換を当社は支えています」

新しい財務モデル

シニアバイスプレジデント兼最高財務責任者 (CFO) ロバート・ハリデイは、アプライド マテリアルズの新しい財務モデルについて説明しています。これは、非 GAAP 調整後の 1 株当たり利益を 2016 年度までに 1.50 ドル～2.15 ドルに引き上げることを目指すものです。このモデルでは、業界における投資水準の変動や想定される市場シェアなど、さまざまな要因を考慮に入れています。「業界が転換期を迎え、技術課題に応えるために新材料が必要とされることが当社に有利に働き、当社はお客様にとって戦略的に価値あるパートナーとして重みを増しつつあります。これに伴い、当社の対象市場全体をさらに拡大する機会も広がると見えています。この新しい財務目標を支えるため、当社は最先端イノベーションへの投資を行い、将来の利益ある成長に向けてコスト削減の実践と規律を重視していきます」

新しいモバイル製品を支える技術を続々と準備

エグゼクティブ バイスプレジデント 兼 シリコンシステムズグループ ジェネラルマネージャーのランディア・タッカーは、いくつかの新製品について説明し、トランジスタ、インターコネクト、パターニング、歩留まりなどに関する具体的な成長機会を論じています。「2013 年下半期を迎えるにあたり、当社は近く訪れる技術転換をお客様がうまく乗り切れるよう製品計画を立て、各種イノベーションを取りそろえて足場を固めています。当社の新しいトランジスタ技術は、より効率的なコンピューティングパワーを求めるお客様のあくなき要望に応えます。さらに、バックエンド工程でデバイスの信頼性を確保するインターコネクト技術も開発しています。お客様はこうしたイノベーションの勢いに乗って 1x nm ノードへの移行を加速し、モバイル製品の新時代を切り拓けるようになります」

エネルギー&エンバイロメンタルソリューションズおよびディスプレイ事業グループのグループバイスプレジデント兼ジェネラルマネージャーであるアリ・サレポールは、アプライド マテリアルズのディスプレイ製造装置事業について最新情報を紹介しています。「ディスプレイ業界はこの 20 年間で最も重要な技術転換を迎えています。新しい金属酸化物や低温ポリシリコン(LTPS)などの材料を使った高精細 LCD や有機発光ダイオード(OLED) ディスプレイが登場してきたからです。今後はより大型で高精細なスクリーンをはじめ、

ウェアラブルディスプレイや折り曲げ可能なディスプレイなど新形状規格への対応も求められ、メーカーはさらなるデバイス性能と歩留まりの課題に直面しつつあります。これらはプレジジョンマテリアルエンジニアリングを得意とするアプライド マテリアルズの本領とも言える分野で、競合他社と明確に一線を画す好機です」

非 GAAP 調整後の財務指標の利用について

非 GAAP 調整後の 1 株当たり利益目標値では、非 GAAP 調整が将来の会計期にわたって適用されると仮定しています。当社の経営陣は、ビジネス目標に照らした営業成績や財務成績の評価ならびに計画立案に、非 GAAP 調整後の業績を用いています。これらの財務指標は GAAP（一般会計原則）に沿ったものではなく、また他社の用いる非 GAAP ベースの会計報告手法とは異なる場合があります。こうした指標は、投資家の皆様が経営陣と同じ視点に立って当社の事業を検討し、過去の会計期と当期の業績を比較する上で役立つと考えています。

将来予想に関する記述について

本プレスリリースには、当社の業界展望、成長機会、製品、戦略、2016 年の財務モデル、その他将来の見通しに関する記述が含まれています。こうした記述は既知または未知のリスクおよび不確定要素に左右されるため、実際の結果はこうした記述が明示ないし黙示する帰結と大きく異なる場合があります。このようなリスクおよび不確定要素としては、①グローバルな経済・業界動向の不確実性、②モバイル製品への需要、③新技術や生産能力に関する顧客ニーズ、④当社顧客ベースの集約傾向、⑤当社が(i)広範な製品を開発・提供・サポートして市場を拡大する能力、(ii)事業イニシアティブの目標を達成する能力、(iii)知的財産権を取得ならびに保護する能力、(iv)主要社員を引き付け、意欲を高め、定着させる能力、⑥その他、当社が証券取引委員会（SEC）に提出する最新の Form 10-Q 報告書に記載されたリスクがあります。将来の見通しに関する記述はすべて 2013 年 7 月 8 日時点における経営陣の推定、予測、仮定に基づくものです。アプライド マテリアルズは将来の見通しに関する記述を更新する義務を負っておりません。

アプライド マテリアルズ (Nasdaq: AMAT) は、先進的な半導体、フラットパネルディスプレイ、太陽電池の製造に用いられる革新的な装置、サービスおよびソフトウェアを提供するグローバルリーダーです。アプライド マテリアルズのテクノロジーにより、スマートフォン、薄型テレビ、ソーラーパネルなどの製品が世界中の家庭やビジネスで、より手頃な価格でご利用いただけるようになります。

詳しい情報はホームページ : <http://www.appliedmaterials.com> でもご覧いただけます。

このリリースは 7 月 8 日米国においてアプライド マテリアルズが行った英文プレスリリースをアプライド マテリアルズ ジャパン株式会社が翻訳の上、発表するものです。

アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社(本社:東京都、代表取締役社長:渡辺徹)は 1979 年 10 月に設立。京都、大阪支店のほか 14 のサービスセンターを置き、日本の顧客へのサポート体制を整えています。

このリリースに関する詳しいお問い合わせは下記へ
アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社
社長室: 大橋 百合 (Tel: 03-6812-6801)
ホームページ: <http://www.appliedmaterials.com>
